



行所 1丁目29番8号
 区蒲田17821(代)合
 大田工業協同行組
 都電蒲田編集発人
 機田編集委員之
 機田編集知所
 東京蒲田印刷所
 都城南大田中央8丁目5番1号
 東京蒲田印刷株式會社

年頭ご挨拶



蒲田工業協同組合

理事長 田村知之



新年あけましておめでとうございます。一年が過ぎるのは早いもので、私が理事長職に就任して2年半が過ぎました。ここまで無事に業務を進めてこられたのも一重に皆さまのおかげと感謝しております。本年も昨年以上に協力賜りますようお願い申し上げます。最初に嬉しい報告をいたします。お陰様で今年は当組合の創立70周年を

迎えます。昭和24年蒲田工業協同組合としてこの大田区で発足して以来、組合員の取扱品の共同購買、事業資金の貸付や借入、事業に関する経営及び技術の改善と向上、知識の普及を図るための教育や情報交換、労働保険事務組合としての業務、福利厚生事業、保険事務代行業務等を主な目的として挙げ、会員の皆様と共に歩んで参りました。



謹賀新年

平成三十一年元旦

これもひとえに皆様の長年にわたるご支援の賜物と厚く御礼申し上げます。

しかしながら時代が進むにつれ、近年の国内は少子高齢化が急速に進み、生産年齢人口が減少していく中で、組合員の皆様の経営環境は、常態化する人手不足、長時間労働は正に向けての対応に加え、年間休日数日の確保や適正賃金の支払い、国が進める働き方改革や生産性の向上への取り組みなど、数多くの課題を抱える状況が続いております。では近隣諸国ではどうでしょうか？例えばアップル製品の多くは台湾企業を通して、中国大陸で製造しています。受託しているのは台湾の鴻海（ホンハイ）精密工業ですが、鴻海が中国大陸に持つ生産拠点を製造しています。それは賃金が安いからではなく、大陸には膨大な数のエンジニアという「人材」がいるからと言われています。

目次

- 「年頭ご挨拶」 ①
- 「深まる混沌、どうする日本」 ①
- 「組合員だより」 ⑤
- 「業務報告」 ⑤
- 「掲示板」 ⑤
- 「木鶏会々長ご挨拶」 ⑤
- 「木鶏会の活動」 ⑤
- 「年賀広告」 ⑦

「深まる混沌、どうする日本」



愛知淑徳大学教授 真田幸光氏 講話

「自国第一主義に傾く世界」

最近の国際情勢の中で、何を一寸感じて頂きたいかと申しますと、国

隣国の中国や台湾はその「人材」を生かし、技術力も日本と横並びする日は目の前に来ています。会員の皆様、これからは自社の立ち位置が日本だけではなく、世界を見渡してどの位置にいるかをしっかり把握し、今以上に「人材育成」「強い会社」を目指し、自社のブランド力を付けていきましょう！

最後になりますが、70年の歴史ある蒲田工業協同組合会員の皆様が、今後益々発展していきますよう心より祈念申し上げて私の年頭のご挨拶とさせていただきます。

際という言葉がありますよね。英語でインターナショナルというのも国際です。一方、最近我々が良く使う言葉でグローバルというのも国際。

これは日本語になると良くわからない同じような言葉なのですが、インターナショナルの方は国をベースに考えるという事です。それに対して、グローバルは地球規模で物事を考えるという事です。この二つには明確な違いがあります。日本人にはその辺の違いが、ごちゃごちゃになって使われていることが多いのです。

何故このような事を申しあげたかと言いますと、オバマ大統領はグローバルに物事を考えて行く大統領だ。いいか悪いかは一才別にしてください。グローバルに対処しなくてはいけない問題であるところの、例えば、米口の軍事力の削減や、世界規模で考えないと駄目な環境問題をしっかりと行こうではないかと。とオバマ大統領は主張した訳です。

トランプはオバマの政策に対して全く逆の事を言い始めた訳です。いやいや、国が重要じゃないか。だからアメリカが頑張らなくてはならない。アメリカファーストという様な形になっていく訳です。だからインターナショナルに物事を考えていくと、どこ何処ファーストという考えが強まってきています。

今、世界のトップリーダー達の基本的な考えは、グローバルに物事を考えていく様な人はほとんどいないと見られます。インターナショナル。即ち、自分の国をベースにして、国際情勢を考えている人達がほとんどです。何々ファーストという考え方をしていると、ベースにでてくるのは必ず自分の国が大事ですから。ナショナルインタレスト、即ち国益を考えなくてはならない。だから国益とは何かという議論が盛んに国内で行われる。

世界の国々の国益が同じ方向を向いてい

れば問題ないのですが、そんな事はないですよ。日本の国益と中国の国益は明らかに違うでしょう。ということは国益同士がぶつかる訳です。そこで紛争が起こる。世界はどうしても紛争に向かって動きがちなのです。紛争というのは勿論、武力を伴う紛争もあるし、それから言葉、政策合戦での紛争もある。紛争が起こる事になれば、究極は武力戦争が起こるかも知れない。という事になったら、勝たなくてはいけないという事になると、自分の国の国防力、ナショナルディフェンスを強くしなければならぬ。そういうことから日本も軍事力を強くする考え方でやっていると思います。これはいいか、悪いか、正しいか、正しくないか置いてください。

日本の場合には国防力を強化する為には、先ずは憲法を改正しないといけないのではという発想に当然なる訳です。政治家は。

日本を含めた感じで、インターナショナルな考えが、今世界のトップリーダー達の基本的なスタンスにあるという事を皆様方には改めて認識をして頂きたい。ですから国同士の様々な軋轢が、今後も今のトップリーダー達が続く限り増えると思います。

ナショナルインタレストに基づくコンフリクトが発生していて、これを処理しない限りは続く。簡単にやられる方も、仕掛けるもやられないですからね。ということは、コンフリクトの時代が暫く続くという事で、ビジネスを皆様方に考えて頂かないと。こういう国同士のコンフリクト、日本も巻き込まれているコンフリクトの中で皆さんはどういうビジネスをして行って利益を確保して行くのかを考えて頂かざるを得ないような状況が暫く続くと思いま

す。
ですからそういう中で国際情勢をチェックして、今後の動きの中で我社はどうあるべきか、というのを考えて頂きたいと思えます。

「欧州情勢と英国EU離脱」

国際情勢の中で、金融面から一番心配なのは欧州です。欧州の核はEUです。EUが崩れて行く事になれば、EUが発行している通貨ユーロの信頼度も崩れる。ということは通貨ユーロ建ての資産を持つている人の資産価値は落ちる。それは一体誰かという、欧州の主要な銀行がユーロ建ての資産を沢山持っている訳です。ですから欧州の主要な銀行は今、経営が非常に揺らいでいると思います。

所謂、経営の状況が時価によってユーロの為替レートの時価によって変動するという不安定な状況になる。ですからヨーロッパは変動幅が大きいような状況が続いております。

欧州の主要な銀行がそういうリスクを抱えているということになると、欧州の景気の先行指標であるところの欧州株もずっと下げ圧力を受け続けている。このような状況になっていきます。

欧州が崩れると先進国が崩れますから。日本も含めて崩れますから。欧州情勢がどうなっていくのかは、直接は関係ないですが、アンテナを張って置いて下さい。

輸出、輸入で互換関係がある方は勿論、ご関心を持っていらっしゃると思います。が、そういう互換関係がなくても、ひいては日本経済、皆様方にも影響が出てくると思います。

そして、欧州の情勢ですが、ブレグジットどうなるかという事です。皆さん、ブレグジットのニュースって聞いていないでしょう。何でもブレグジットに関する議論は進んでいません。

理由は物凄く簡単で、メイ首相は凄く我儘なのです。こう言っているのです。「大陸ヨーロッパの皆さん、内ねえ、ブレグジットします。だって、難民が来るのは困りますから。いやです。でも、経済は今迄通りやらせて。」こう言っているのです。

こんな虫のいい話しはないと思いませんか。ですから大陸ヨーロッパの方は、「何言っているのよあんな。」メルケルなんか怒っちゃっている訳です。話をする余地も無い。ですから話しもしないです。

でも、そういうしている内にルール上のデットラインは2019年3月と言われておられます。後、6か月しかないのです。皆、あたふたしています。

ところが、一番あたふたしていないのは何処だと思えますか。イギリスなのです。イギリスは、いやいや、大丈夫だと。どうせ決まらなくなつて、大陸ヨーロッパはイギリスがないと困るだろう。という事で大陸ヨーロッパの方はイギリスの対応に非常に怒っている訳です。しかしイギリスが全然慌てていない。うやむやにしながら既得権をそのまま持ち続けられるだろうとタカを括っているような所はあります。ですからイギリスの方から、「ごめんない。話しをさせて下さい。」と歩み寄る余地はないです。

今、国際情勢の関与者はブレグジットに対しては、とにかくどうなるか分からないから様子を見ようという雰囲気になっていて、様子を見るということは、動かないか

ら景気は停滞します。このような状況が続いています。これ、はっきり出て行くという事が決まれば大変だと言って、例えばもつとヨーロッパに拠点を作らなくてはいけないとそういう動きが出てくる苦なので、起つてないですよ、本格的には。イギリスが非常に勝手な事をやっている訳です。

「イランと中東問題」

イランの問題に入って行きたいと思いません。アメリカは何故イランを外交問題の最大の対象国の一つにしているのかと申しますと、もう一つは中国なのです。中国とイランが今最大の関心事を持っている国なのです。

アメリカはイランを何故それだけいじめるのかと言いますと、最大の同盟国であるイスラエルがイランを嫌がっているからです。イランはイスラエルの事を何て言っているのか。ずっと歴史的にこう言っているのです。「あんな国は全滅させてやる」と。ですからイスラエルからしてみるとイランは本当に敵中の敵なのです。

そういう中でイスラエルの意向を受けたアメリカはイラン叩きに入る。これは皆さんかなり深刻だと思ってください。アメリカは今イランの事を首締りに行っているのです。

そしてこの話は北朝鮮にも飛び火をしている訳です。だからイランをやつつけるといふ事になると、かなり全力集中をしなくてははいけない。

何故かという、歴史が長い話でしょ、中東問題というのは、ですからアメリカ側からしてみると、今日、明日簡単に片付く

問題だとは思っていない訳です。長期戦を覚悟しなくてははいけない。そして、こちらに集中しようかと思つているときに、後ろで北朝鮮に騒がれると、アメリカとしては動きがとりづらい訳です。

ですから何をしているかと申しますと、北朝鮮問題は和睦しなくてはならない。だから和睦の方向に向かつていてトランプは本音でどう思っているか分からないけど、「金正恩君はいいメッセージをくれた」とか言つて、取り敢えず褒め称えたという行動にでてきている。本当はそうは思つていないと私は思いますよ。

北朝鮮だけだつたらコソソとやつつけていくと思つていますが、中国、ロシアがいるから簡単に行かないですよ。コソソとやるうとする今この状況で、中国、ロシアにかかつてこられるから大事になってしまふ。中東とアジアに戦線が二つに分かれてしまふ。そうするとアメリカとしては対処できない。だから北朝鮮問題は後ろに中国とロシアがいるから、こっちは一旦和睦なのです。イスラエルとイランの問題が起こつてくるから一寸方向転換をせざるを得なくなつてくる。

この中東問題に対しては、ロシアの意向も見え隠れしています。ロシアにとってシリアは大事な味方の国です。

そのシリアを守りながらイランと取り敢えず今、組んでいます。イランとシリアと組んで、先ずは過激派をやつつける。イスラエルとの関係は取り敢えずやむやみにする。味方でも敵でもない。こういう動きを示しながらトランプが、アサドを潰せと言つているのを今、何となくかわしている。実際アサド政権、残りました。

ロシアはアサド政権を生き残らせる為に

は、シリアの国内にいるISを根絶しなくてはならないという事で、シリアの国内にいるISの本拠地を今、イランと組んで叩きに入っている状況が続いています。

お分り頂けますか、もうぐちゃぐちゃなんです。一言で言うと、誰が敵で、誰が見方か分からなくなつています。だからインターナショナルな考え方をしているから、敵か味方かを見分ける事をやっているし、敵の敵は味方という考え方もあると。そういう中で、ケースバイケースで、ここと繋がろう、あつちと繋がろう、そんな事を皆がやり始めているから、何がどうなつているか良く分からない状況が続いているという事なのです。

「米中貿易摩擦」

ここから先、皆様のお仕事に近い米中摩擦に入っていきます。アメリカは中国の貿易がどうのこうのと言う事で、今回の関税引き上げの問題を出した訳ではない。という事を申し上げておきます。全く違う。アメリカは覇権争いをしてくる中国を根本的に叩き潰すという所から今回始まつたと思つて下さい。従つて、関税の問題で、一旦勿論解決すると思つています。どつかで落とし所、両方共見せると思つていますが、しかしながらそれで終わりではない、むしろ今後継続して、米中の摩擦は続くだろうと考えして下さい。

今の米中の摩擦の背景は何かと申しますと、一つは知的財産権の問題です。そして、もう一つが、制宙権の問題。

知的財産権の問題は、中国が、アメリカの知的財産を勝手に流用して、そしてそれを商品開発なんかに戻しているというものが

一つの背景だったのですが、今年になって殊更これを強めてきています。

最大の背景は、知的財産権を勝手に流用や盗用するだけではなく、それを事もあろうに中国の軍事産業強化に使つているという事でアメリカはもう怒り始めたのです。その軍事産業を拡大するのが、宇宙開発に繋がってくる。なのでアメリカはもう徹底的に中国を覇権争いで叩きに行かなくてははいけないと考えているから、今後中国の事をああでもこうでもないと言つて首を絞めると思つています。首を絞める第一歩として、関税の引き上げ。先ずは経済力を落とさないといけないということで、中国最大の稼ぎ頭である貿易、輸出叩きに行くという作戦に出ています。

アメリカは中国から5000億ドルの輸入を今やっております。アバウトですよ。

一方、中国はアメリカから1500億ドル輸入をしています。どういう事かと申しますと、それだけ見ますと、アメリカは5000億ドル制裁をかけられるのですが、中国は1500億ドルまでしか制裁をかけられない。明らかにこれだけ見ればアメリカの勝ちです。だから皆さん、あれつと思われましょう。むしろアメリカの方が対中貿易依存度が高いからアメリカの方が痛いんじゃないのと思われませんか。私もそう思いました。ですからアメリカに聞いたのです。これはどういう事なのか。アメリカはこう答えるのです。いやいや、大丈夫。5000億ドル輸入をしているけれど、内は覚悟を決めれば他の国からいくらだつて輸入できるのだ。中国はいらないと。こう言うのです。

アメリカはかなりやる気で、本気だと思つています。ですから中国がごめんなさいする

まではアメリカ側からは折れてこないと一応考えてください。

どうも11月位に本格的に米中の首脳会談が行われるのではないかと見られています。という事で結論、米中の今現在の対立は11月位までは続くだろうけど、その後中国が裏側ではごめんなさいをする形で、アメリカがまあよし、よし、と言う形で中国の面子をたてる様にしてこの問題は一旦収束をする。というのが、マーケットの読みです。今後更に悪影響はでないと思います。

「日米問題」

次に日米の問題をお話しいたします。

実はアメリカは日本に対して、自動車、鉄鋼でプレッシャーをかけてきているのはご存知のとおりです。でも、あまりこれまでは言われてなかったです。鉄鋼の対米輸出は全体の2〜3%なので、実害はそんなにないだろうという見方で、あまり心配していません。非常に象徴的なものだと思います。

自動車は鉄鋼よりは影響がでると思います。しかしながら自動車業界もトヨタなんかはこれまでそんなに心配はしていませんでした。

ところが、先週トランプ大統領が、やはりやるぞ俺と言ったので、日本株下落しましたよね。これは一体どういう背景かと申しますと、私が聞いたところでは、日本の麻生副総理が、トランプ大統領の虎のおつぽの端っこを踏んずけたみたいですよ。何かというと、正に米中や日米の貿易摩擦に關して、麻生さんは事もあろうに中国の副首相と共に、自由貿易を守る為に日本と中国は手を組んで頑張ろうではないかという

発言をしたのです。

アメリカは怒った。何を言っているんだと。しかもこともあろうに中国と組む日本がと。お前は同盟国だろうと。なのに中国と組むなんてとんでもないと行って怒っているのです。そのメッセージが、先ず最初に何が出たかといいますと、日本に対してはイランから石油の輸入を止めろと云ったでしょう。麻生さんがそういう発言をしたから日本も巻き込まれてしまったのです。

日本はイランから石油の輸入をやらなくなったからガソリン価格は上がりますよ。それから石油製品のコストが上がります。原材料価格が上がるので、これは間違いなく影響がでます。

日米摩擦が更に強化されてくる様な可能性があります。皆さんに影響でますよ。この日米問題は日本政府が今後どのように対応していくのかという事を非常に注目して行かなければならない。

では、アメリカの本来の目的はなんだ、という事を申し上げておきます。アメリカは何故日本に対して摩擦をかけたのかというと、一つ目は国防予算。もっと日本が防衛装備品を買いなさい。二つ目、こちらが問題ですが、在日米軍の思いやり予算を拡大しなさい。この二つがアメリカの要求の背景です。だからこれにきちんと答えていれば日米摩擦の問題は消えて来る予定だったのですけど、麻生さんの発言で違う方向に回しかねない状況になっております。

防衛予算の方で防衛装備品の購入について私が認識しているのは、アメリカが満足行くような回答にはしていないみたいです。思いやり予算の方は、日本の国民世論もありませんので、そう簡単にはつけられないの

です。それで、霞が関の方では、思いやり予算はそんなに拡大できないけれど、例えばアメリカの中東軍事活動を間接的に資金援助するとか、違う所で資金援助をしようと、それをアメリカに中東で利用してもらおうとか、そんなような事で何とか解決に向かつて動こうとしていた筈なのです。

アメリカはイランを中心とした中東に今全力を注ぎようとしているから、そっちに予算を使いたいのです。アジアで使いたくないのです。アジアには、中国とロシアがいるから、それは日本に守らせたい。そして日本に資金負担もさせたい。それをさせるために日米の摩擦、圧力を加えたいというのが、自動車と鉄鋼だったので。それが本丸だったので。

「北朝鮮問題」

さあ、そういう中で北朝鮮の問題を少し取り上げておきたいと思えます。アメリカは北朝鮮と和睦しているのですが、北朝鮮問題の主役はロシアです。北朝鮮建国の祖である金日成は、戦後の国家運営は、ずっとソビエトと平仄(ひょうそく)を合わせて動いてくる訳です。

ところが、ソビエトが力を落とす、壁も崩壊して東西冷戦が終結する中で、スポンサーを失った北朝鮮は困った訳です。その時ポット横を見ると中国が何か物をくれそうな顔をしている。だから中国から物をもらう。しかし、中国には魂を売っていない、言う事はきかない。そういう状況が今日まで続いています。

ソビエトとその流れを組むロシアとはコンタクトをずっと続けてきているというのが、北朝鮮のポジションです。ですから、

北朝鮮問題のロシアは、中国ではなくて、ロシアという認識を皆さんお持ち下さい。ここは日本のマスコミの大きな間違い。ロシアです。

北朝鮮で軍事行動が起こるかも知れない。米中の挟み撃ち作戦、金正恩の斬首作戦が危惧されていて、そういう状況を見て、プーチンは考えました。やはり北朝鮮を守ってやらなければいけないと。そこで、プーチンはシナリオライターになって、金正恩に言うのです。韓国と仲良く、南北融和に向かってくれと。当事者同士が仲良くないらば、アメリカや中国も手出ししにくい筈だ。だから先ず、融和しなさい。その為には平昌に行くと、行きますと言いなさい。そして、今年に入って直ぐに平昌オリンピックに参加しますと宣言をした訳です。

ここで重要なのは何かと申しますと、韓国がそんなものはいらない、来るなど言ってしまう問題はなかったのですが、文在寅大統領は直ぐに受けましたね。受けるどころか、直ぐに合同チーム作るうぜと言わなかったですか。これは何を意味するかと申しますと、プーチンは北朝鮮にそういう指示を出すと共に、韓国の文在寅に対して、一寸こういう状況になるからサポートしてくれ。という連絡を入れていたのです。何故その連絡が韓国の、文在寅に入ったかという、文は北の出だからです。彼のお父さんは北朝鮮。元々、彼の師匠さんは盧武鉉という、北と融和しようという政治家だったということもあって、北に近い。だからロシアともコンタクトを取っていた人物の筈です。それをプーチンは分かっている、こういう事をやるからちゃんと応じてくれよと事前に言っていたということですよ。

そうこうしている内に平昌の開会式になる、プーチンは金正恩にお前行けと言っていた。でも金正恩はやはり一寸怖かったのですね。自分が行かないで、ご存知のように金与正キムヨソクという妹を行かせましたね。これが大成功。融和に向かつてはあのかついで男よりも、かわいい与正ちゃんが行った方が良かった訳ですね。これで一気に融和ムードが広がってくるのです。

平昌の Paralimpic が終わる間に国際世論は、当事者同士が仲良くすると言っているのだったら、いいじゃないかと言って、融和に向かつての賛成の意見に大きく傾くのです。

このタイミングを捉えて、プーチンは、北朝鮮からトランプに書簡を出させたのです。会いたい。この時、トランプは断られるような余地はない。しかもイラン問題に集中しなくてはならないという事で、じゃあ会おうではないかという話になったというのは、この6月の米朝首脳会談に繋がっていったということです。こうした流れを受けて、我々は何て言っているかと言うと、シナリオライター、プーチン。主演女優賞、金与正。

こういう様な形で、北朝鮮情勢が動いています。ロシアが水面下で暗躍しているという事を頭の片隅に置いてください。

中東情勢でもロシアが後ろで暗躍している。表には出て来ていないでしょ。日本のニュースには出て来ていないのです。しかしながら私が見るところにはかなりの影響力を持って動いているのがロシアです。

(講演会要旨抜粋)
平成30年9月11日

組合員だより



訃報

川嶋 慎治様
同和発條株式会社 代表取締役社長 川嶋 治彦氏の
ご尊父 川嶋 慎治様はご逝去されました。
謹んでご報告申し上げますと共にご冥福をお祈り致します。

西ヶ谷 勝美様
当組合顧問(元理事長) 西ヶ谷 勝美様はご逝去されました。
謹んでご報告申し上げますと共にご冥福をお祈り致します。

永森 忠臣様
永森電機株式会社 取締役社長 永森 忠臣様はご逝去されました。
謹んでご報告申し上げますと共にご冥福をお祈り致します。

代表者変更

株式会社大谷造機所
新代表者 大谷 寿織氏



一月十一日
1 新春講演会
講師 田中靖浩公認会計士事務所
所長 田中 靖浩氏
テーマ 「心理学をビジネスに活かす」

2 新春賀詞交歓会



新春賀詞交歓会

四月二十日

- 常任理事会
1 平成二十九年度事業報告・決算報告・剰余金処分案承認の件
全員異議なく承認
2 平成三十年度事業計画案・収支予算案承認の件
全員異議なく承認
3 平成三十年度借入最高限度額決定の件
一組合員に対する貸付最高限度額決定の件
手数料最高限度額決定の件
全員異議なく承認
4 役員報酬決定の件
全員異議なく承認
5 任期満了に伴う役員改選の件
全員異議なく承認
6 定款一部変更の件
全員異議なく承認
四月二十日
理事会
議題は常任理事会上げのもの
全員異議なくこれを承認
五月十五日
1 平成三十年度通常総会
可決事項全員異議なく諒承
2 講演会
講師 VTCマニファクチャリング・ホールディングス(株) 是松 孝典氏

テーマ 「君達、会社経営を真剣に考えているのか？」

- 3 懇談懇親会
六月十二日
常任理事会
1 中央会全国大会について
2 七十周年記念祝賀会の件
全員異議なく承認
七月十九日
定期健康診断の巡回
七月二十三日
懇親会
場所 「星火」(自由が丘)
九月十一日
常任理事会
1 賀詞交歓会の件
2 工業蒲田の件
全員異議なく承認
十月二十五日
ワインの会
場所 「大森東急レイホテル」
講師 ワインエキスパート岩崎 登喜雄氏
十一月十三日
常任理事会
1 賀詞交歓会の件
2 組合総会の日時及び講師の件
全員異議なく承認



年末・年始事務取扱のお知らせ
年末・年始の組合事務局の事務取扱日は左記の通りとさせていただきます。

記
年末 十二月二十八日(金)まで
年始 一月七日(月)から

木鶏会々長ご挨拶



会長 宮澤 章

新年あけましておめでとうございます。昨年、3月に高原前会長より会長職を引き継ぎました。

おかげさまで会員皆様のご理解とご協力のもとこの新年を迎える事ができましたこと感謝申し上げます。

近年、時代の変化が激しいことはご存知の通りです。

世界では「自国利益優先主義」によるアメリカと中国の貿易戦争も始まり、混沌とした状況がより深まってまいります。

またAI、ビッグデータ、IoTの技術革新による第4次産業革命の到来とグローバル化が加速する中、身近なものでは人手不足による働き方改革、経営者の高齢化による事業継承問題と大きな経営の変化が求められます。

変化はチャンスであり他より先に対応できれば優位性が生まれます。いままでの価値観が大きく変わり、かつての常識が通用しなくなる中、いかに早く、新しい価値を創造できるかがカギになるのではないのでしょうか。

例えば電子マネーによるキャッシュレス化で現金お断りの国が多くなってきました現金主義の日本でもこの流れには逆らえないでしょう。

企業取引もつい最近まで手形や小切手な

どが当たり前でしたが、今ではネットバンキングやファクタリングになっております。経営には為替や金利がとても大事ですので製造業はモノをつくるだけでなく、このパラダイムシフトの時を利用するのも良いのではないのでしょうか。

木鶏会々員の多くはおのの勉強会参加や海外視察、取引を行っており、広い視野でグローバルに観察して情報も多く、その感覚は共有されていると認識しています。

この感性で、今年も定例サロンで情報共有するとともに専門家や講師を招いて勉強し他より先を目指したいと思えます。

新しいチャレンジができるワクワクする1年が始まります。共に楽しんでこの時代変化に対応していきましょう。

今年も木鶏会をどうぞよろしく願い申し上げます。

木鶏会の活動

一月二十三日

正副会長会議及び定例経営サロン

1平成二十九年年度決算報告について

2平成三十年年度予算案について

3役員改選について

全員異議なくこれを諒承

二月十三日

1定例サロン 増田 道造氏担当

岡田 飯金(株)茨城工場見学

三月十三日

木鶏会通常総会

1木鶏会総会

2講演会

講師 評論家 江崎道朗氏

テーマ 「北朝鮮有事にどう対応すべきか 米日韓そしてそれぞれの事情をふまえて」

3懇談懇親会

三月二十七日

正副会長会議

1年間の定例サロン担当決定について

2進行役副会長の担当決定について

3中小企業団体青年部の担当決定について

4工場見学と納涼会について

5ゴルフ会、ワインの会について

6サロンの会員間工場見学について

全員異議なくこれを諒承

四月十日

定例経営サロン 宮澤会長 担当

四月十八日

大田工連青年部連絡協議会総会

五月八日

定例経営サロン 飯室肇氏・鈴木亮介氏・担当

会員の工場見学

(株)富士テクノマシン

(株)極東精機製作所

六月十二日

定例経営サロン 野口雄司氏 担当

六月二十九・三十日

工場見学

場所 (株)大谷加工 那須工場



(株)大谷加工 工場見学

七月十日

納涼経営サロン 八巻孝之氏 担当

場所 春秋ツギハギ 日比谷

七月十四日～十八日

大田工連青年部連絡協議会 海外視察会

場所 ロシア・ウラジオストク視察

七月二十一日・二十二日

大田工連青年部連絡協議会引継ぎ研修会

場所 鬼怒川

九月八日

大田工連青年部連絡協議会納涼会

九月十一日

定例経営サロン

講師 愛知淑徳大学 真田幸光教授

テーマ「深まる混沌、どうする日本」

十月九日

定例経営サロン 大谷寿緑氏担当

十一月三日・四日

大田工連青年部連絡協議会大田フェスタ

十一月十三日

定例経営サロン 内原康雄 氏担当

十二月十一日

忘年会

会場 フェメゾン (港区高輪)

十二月一九日

大田工連青年部連絡協議会忘年会



謹んで新年のご挨拶を申し上げます



蒲田工業協同組合

(五十音順)

尼寺空圧工業株式会社

尼 寺 実

株式会社新井久四郎鉄工所

新 井 陽 一

イーター電機工業株式会社

山 本 浩 之

有限会社梅津精機製作所

遠 藤 浩 樹

株式会社エヌエスシー

村 岡 純 一

株式会社NCネットワーク

内 原 康 雄

荏原工業株式会社

長 井 俊 樹

エビノ電化工業株式会社

海老名 伸 哉

株式会社エフエス

古 岡 正 之

株式会社大谷造機所

大 谷 寿 続

岡田钣金株式会社

増 田 道 造

金勝産業株式会社

金 勝 恒 男

株式会社極東精機製作所

鈴 木 健 一

有限会社京浜プレス工業所

斉 藤 喜 久 雄

株式会社弘機商会

高 原 隆 一

株式会社浩伸技研

森 田 淳 士

有限会社孝治工業

東 敏 明

佐々木発條株式会社

佐 々 木 毅 彦

産業医・医学博士

佐 藤 精 一

株式会社三栄精機工業

今 田 悠

株式会社三協アルマイト

岩 崎 登 喜 雄

株式会社志村精機製作所

志 村 政 彦

第一金属工業株式会社

菅 谷 義 弘

大産工業株式会社

千 葉 泰 常

大志工業株式会社

沖 山 裕 夫

大進精機株式会社

宮 田 正 広

大成工業株式会社

鎮 目 哲 郎

謹 賀 新 年

蒲田工業協同組合

(理事五十音順)

相談役

大 谷 文 雄

理事長

田 村 知 之

副理事長

望 月 直 人

副理事長

高 原 隆 一

専務理事

鈴 木 健 一

相談役・理事

増 田 道 造

相談役・理事

荻 野 茂

常任理事

飯 室 肇

常任理事

宮 澤 章

理事

岩 崎 登 喜 雄

理事

海 老 名 伸 哉

理事

斉 藤 喜 久 雄

理事

菅 谷 義 弘

理事

竹 内 榮 多

監 事

佐 々 木 毅 彦

監 事

森 田 淳 士

事務局長

沢 登 正 彰

謹んで新年のご挨拶を申し上げます



蒲田工業協同組合

(五十音順)

株式会社瀧口製作所

古 田 茂 樹

株式会社タムラエンジニア

田 村 知 之

株式会社タンケンシー ルセーコウ

永 井 治 子

ティヴィバルブ株式会社

竹 内 康 晴

株式会社寺岡精工

寺 岡 和 治

東亜株式会社

小 柳 優

株式会社東京精密器具製作所

西ヶ谷 邦 夫

株式会社東京ハードフェイシング

吉 田 裕 二

同和発條株式会社

川 嶋 治 彦

有限会社巴精工所

武 市 孝 雄

株式会社鳥海製作所

鳥 海 哲 司

株式会社中谷機械製作所

中 谷 和 彦

南旺工業株式会社

林 隆 史

株式会社日研機材製作所

高 橋 正 徳

株式会社日産電機

中 村 國 男

株式会社日章機械

小 林 章 彦

有限会社日進工業

林 邦 彦

日新電気株式会社

奥 山 隆 行

日本チエン・ギヤ
無段変速機株式会社

加 藤 進 弘

株式会社羽田パイプ製造所

野 口 雄 司

有限会社早崎製作所

早 崎 吉 春

深尾精機株式会社

中 井 富 士 夫

有限会社富士精機製作所

荻 野 茂

株式会社富士テクノマシン

飯 室 肇

富士馬鋼業株式会社

宮 川 栄 一

株式会社藤原製作所

藤 原 康 明

株式会社文化精工

桑 原 秀 樹

細田工業株式会社

細 田 俊 男

有限会社マイテーパー産業

加 藤 茂

株式会社マコメ研究所

沖 村 文 彦

株式会社マサオプレス

宮 澤 章

株式会社松原製作所

松 原 一 喜

丸中金属有限会社

八 卷 孝 之

三津浜工業株式会社

富 岡 恵 子

有限会社望月塗工研究所

望 月 直 人

有限会社師岡飯金製作所

師 岡 正 雄



HACCP 高度化基準認定工場

となんのお料理をどうぞ

都南工業給食協同組合

大田区南六郷三ー十五ー一

TEL 三三三三ー一七四五ー (代)